



2023年5月12日

各位

会社名 旭ダイヤモンド工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 片岡 和喜  
(コード番号 6140 東証プライム)  
問合せ先 執行役員管理本部長 小浦 雅美  
(TEL (03) 3222-6311)

## 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2025年度を最終年度とする新たな3ヵ年計画（2023年4月1日から2026年3月31日迄）として「中期経営計画2025」（以下、中期経営計画）を策定し、2023年5月12日開催の取締役会において決議いたしましたので、その概要につきまして下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2030年の当社グループのあるべき姿

中期経営計画の策定に当たり、当社経営理念のもと、2030年の当社グループのあるべき姿として「VISION2030」を「世界のモノづくりを支えるグローバルニッチトップメーカーへ」として新たに掲げました。

#### VISION2030

「世界のモノづくりを支えるグローバルニッチトップメーカーへ」

#### 実現に向けた3つの要素

- ・ブランド力の強化 ～市場浸透による拡販～
- ・成長分野/得意分野に注力 ～経営リソースの効果的な活用～
- ・先見的な製品開発 ～顧客ニーズの一步先へ～

#### 2. 中期経営計画の数値目標

中期経営計画は「VISION2030」に向けての改革推進時期<STEP>と位置づけ、具体的な目標を策定いたしました。

	2022年度	2025年度目標
売上高（百万円）	39,320	49,000
営業利益（百万円）	2,506	4,900
営業利益率（%）	6.4	10.0
ROE（%）	4.6	6.0以上
PBR（倍）	0.8	1.0

	3年総額（予定）
成長投資（百万円）	15,000

※ROEについては中長期的に8%を目指します。

### 3. 中期経営計画の重点施策

中期経営計画は、以下の重点施策を実行することにより、収益の拡大、企業価値の最大化に努めてまいります。

#### <事業成長に向けた3つの重点施策>

##### (1) 電子・半導体業界向け工具への注力

電子・半導体セグメントに経営資源を集中させ、収益性の高い製品の生産体制を整備した上で拡販に努め、高収益体制の構築を目指します。特に、脱炭素社会を背景として、需要が急拡大しているパワー半導体用SiC加工製品やSiウェーハ向け超微粒次世代ホイルの開発を進めます。その他、販売部門の営業手法の効率化等にも取り組みます。

上記の取り組みにより、注力製品5品目（①面研ホイル②電着ワイヤ③CMPコンディショナ④面取りホイル⑤ダイシングブレード）の売上を2022年度比で50億円の増加を見込んでおります。

##### (2) 経営基盤強化

業務効率化に資するシステムや次世代を担う人材等に投資することで、経営基盤の強化を図ります。

- ・「経営数値の見える化」と「業務の効率化」を実現する基幹システム等の導入
- ・中長期グループ経営方針に沿った経営の実現
- ・高品質で信頼できる旭ブランドのイメージ確立
- ・次世代を担う社員の採用と育成、働きがいのある職場づくりによる組織力の向上

##### (3) リソースの最適化

グループ内での事業領域整理・製造販売網再編を進め、内部リソースを最適化しつつ、製品の外部調達や販売委託等の外部リソースも取り入れ、「内・外」での最適な連携を検討します。

#### <資本政策>

財務の安定性を確保しつつ資本効率ならびに企業価値の向上を目指すため、以下の施策を実施いたします。なお、当該期間中において、災害や経済危機等により当社に重大な影響があった場合は、見直す可能性があります。

- ・配当性向50%以上
- ・総還元性向120%以上（3年平均）

#### <成長投資>

成長投資について、中期経営計画期間中の3ヵ年で総額150億円を計画しております。

- ・半導体への注力の観点から生産能力増強および生産体制の再編にかかる設備投資
- ・経営数値の見える化や業務効率改善を目的としたIT投資
- ・CO<sub>2</sub>排出量削減を目的とした環境関連投資

#### <サステナビリティ>

持続的な企業価値の向上に加え、環境、社会、ガバナンスに配慮した経営に引き続き努めてまいります。以下については、今後新たに取り組めます。

- ・マテリアリティの設定と実行
- ・SDGs、カーボンニュートラルに配慮した製品の開発
- ・EV部品用工具の提供による脱炭素社会への貢献

以 上